

は し が き

平成4年度以降、小学校・中学校・高等学校で、情報化社会への対応、情報活用能力の育成を目的として、情報教育が教育現場で始まった。平成5年度に中学校の技術・家庭科に「情報基礎」領域が新設され、平成6年度に高等学校に情報教育が一部とり入れられた。

そして、平成14年度からは、中学校の技術・家庭科に「情報とコンピュータ」分野が設けられ、従来より情報教育の割合が増えた。さらに、平成15年度には、高等学校に新しい教科「情報」が必修科目として設けられ、すべての生徒が情報を学ぶようになった。さらに、平成25年度から実施の高等学校学習指導要領では、普通教科「情報」は共通教科情報科と呼称が変わり、よりいっそう、基礎的かつ重要な教科となってきた。

また一方で、パソコンは家庭にも広く普及し、インターネットやホームページは日常生活においても非常に身近なものになり、一般社会人にとっても情報リテラシーは必須なものとなってきている。

このように情報社会の変化はすさまじく、平成16年に出版し、大学、短大、高等専門学校などの情報リテラシーの教科書として利用されている「入門情報リテラシー（Windows XP版）」を、平成19年には、記述の古い箇所を改め、Windows Vista版とし、今回、OSおよびOfficeの環境を更新し、Windows 7/Office 2010とした。

1章で情報社会や情報処理システムを概観し、3章のワープロや4章の表計算は、2章で記述したWindows 7環境のソフトウェアに対応して述べ、7章のインターネットや8章のホームページに関する章を設けるとともに、インターネットの「光と影」やネチケットなど、情報社会における問題点にも触れている。さらに、5章のプレゼンテーションや6章のデータベースも入れて、多くの大学・短大で教科書として利用できるように配慮している。

このように、本書は、パソコンでよく利用されているソフトウェア（Microsoft Office）を活用した情報リテラシーの入門書である。本書は、大学・短大・高等専門学校の情報教育のテキストとして、さらに、例題を多く載せているので情報教育に関係される教員の自習書としても利用できる。

なお、本書で利用したソフトウェアは、Microsoft Office 2010がおもなものであるが、以下のとおりである。

Microsoft Windows 7 Professional

Microsoft Office Professional 2010 (Word, Excel, PowerPoint, Access, Outlook)

ii は し が き

本書を執筆するにあたり、貴重な写真を提供していただいた株式会社アイ・オー・データ機器およびキヤノン株式会社、株式会社ミントウェブ（旧 高岳製作所システム・ソリューションカンパニー）、パナソニック株式会社（旧 松下電器産業株式会社）の関係者に感謝する。また、出版に対して、いろいろご配慮いただいたコロナ社関係者に感謝する。

2010年12月

執筆代表者 高橋 参吉

本書の執筆分担を下記に示す。

1章, 3章	若林 茂
2章, 7章 (7.1～7.3)	黒田 芳郎
4章, 7章 (7.4～7.5), 8章, 付録	高橋 参吉
5章, 6章	松永 公廣

Microsoft, MS, MS-DOS, MS-Office (Word, Excel, PowerPoint, Access), Outlook, Internet Explorer, Windows, Windows 95, Windows 98, Windows 2000, Windows NT, Windows XP, Windows Vista, Windows 7 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。Firefox, Firefox ロゴは、米国 Mozilla Foundation の米国およびその他の国における商標です。Macintosh は、Apple Inc. の登録商標です。ホームページ・ビルダーは、日本アイ・ビー・エム株式会社の登録商標または商標です。

目 次

1. 情報処理入門

1.1 情報社会と情報活用能力	1	1.3.1 ハードウェア	5
1.2 情報処理システムの概要	2	1.3.2 ソフトウェア	8
1.3 パソコンの構成	5		

2. Windows 入門

2.1 Windows 7 とは	9	2.4.2 テキストの作成と編集	21
2.2 Windows 7 の基本操作	10	2.4.3 印刷と保存	23
2.2.1 Windows 7 の起動と終了	10	2.5 ペイント	24
2.2.2 マウスの操作方法	12	2.5.1 ペイントの基本操作	24
2.2.3 画面の名称	12	2.5.2 イラストの作成	26
2.2.4 Windows Aero	13	2.5.3 図形の修正と編集	28
2.3 エクスプローラーによるファイルや フォルダの操作・管理	14	2.5.4 印刷と保存	28
2.4 メモ帳	20	2.6 Windows Media Player	29
2.4.1 メモ帳の基本操作	20	2.7 Office 2010 の操作概要	30

3. ワードプロ入門

3.1 ワードプロとは	32	3.4.1 ファイルの保存と読み込み	43
3.2 Word の基本操作	33	3.4.2 ファイルの印刷	44
3.2.1 Word の起動と終了	33	3.5 応用文書の作成	46
3.2.2 キーの機能とマウス操作	34	3.5.1 ページレイアウトの設定	46
3.2.3 画面の名称	35	3.5.2 段組み	46
3.2.4 文書の作成手順	37	3.5.3 表の作成	47
3.3 文書の入力と編集	37	3.5.4 図の作成と利用	49
3.3.1 文書の入力	37	3.5.5 ワードアート (イラスト文字)	51
3.3.2 文書の編集	39	3.6 他のアプリケーションとの連携	52
3.4 ファイルの保存と印刷	43	演習問題	52

4. 表計算入門

4.1 表計算ソフトとは	53	4.4 ファイルの保存と印刷	68
4.2 Excelの基本操作	54	4.4.1 ファイルの保存と読み込み	68
4.2.1 Excelの起動と終了	54	4.4.2 ファイルの印刷	69
4.2.2 画面の名称	55	4.5 グラフ作成機能	70
4.2.3 マウスおよびキー操作	57	4.6 その他の機能	73
4.3 表計算機能	59	4.6.1 データの並べ替え	73
4.3.1 ワークシートへの入力	59	4.6.2 データの抽出	75
4.3.2 表計算 1	61	4.7 オブジェクトの貼り付け	78
4.3.3 表計算 2	65	演習問題	80

5. プレゼンテーション入門

5.1 プレゼンテーションとは	81	5.4 プレゼンテーションの	
5.2 PowerPointの基本操作	82	構成と実行	89
5.2.1 PowerPointの起動と終了	82	5.4.1 プレゼンテーションの構成	89
5.2.2 画面の名称	82	5.4.2 プレゼンテーションの実行	89
5.3 スライドの作成	83	5.4.3 リハーサル	90
5.3.1 テキストの作成	83	5.4.4 視覚効果	90
5.3.2 表の貼り付け	86	5.4.5 アニメーション機能	91
5.3.3 グラフの貼り付け	87	5.4.6 プレゼンテーションの	
5.3.4 クリップアートの貼り付け	87	順序変更	92
		演習問題	93

6. データベース入門

6.1 データベースとは	94	6.4.4 テーブルにおける	
6.2 Accessによるデータベース		データの操作	101
の設計	95	6.4.5 テーブルのレコードの抽出	103
6.3 Accessの基本操作	96	6.5 フォームの作成	105
6.4 データベーステーブルの作成	97	6.5.1 オートフォームによる	
6.4.1 空のデータベースの作成	97	フォームの作成	105
6.4.2 デザインビューによる		6.5.2 フォームウィザードによる	
テーブルの作成	99	フォームの作成	106
6.4.3 データシートビューによる		6.6 クエリの作成	107
データ入力	100	6.6.1 選択クエリウィザードによる	
		クエリの作成	108

<p>6.6.2 リレーションシップ……………109</p> <p>6.6.3 参照整合性と 連鎖更新・連鎖削除……………110</p> <p>6.7 レポートの作成……………111</p> <p>6.7.1 簡単なレポートの作成……………111</p>	<p>6.7.2 レポートウィザードによる レポートの作成……………111</p> <p>6.7.3 デザインビューによる フォームの作成・修正……………112</p> <p>演 習 問 題……………113</p>
---	---

7. インターネット入門

<p>7.1 ネットワークとは……………114</p> <p>7.1.1 インターネットとは……………114</p> <p>7.1.2 ドメイン名……………115</p> <p>7.1.3 WWW と は……………116</p> <p>7.2 Internet Explorer の基本操作……………116</p> <p>7.2.1 Web ページ閲覧の操作例……………118</p>	<p>7.2.2 検索サービスの利用例……………121</p> <p>7.3 電 子 メ ー ル……………124</p> <p>7.4 電子メールとネチケット……………127</p> <p>7.5 インターネットの光と影……………128</p> <p>演 習 問 題……………130</p>
--	---

8. ホームページの作成入門

<p>8.1 Web ページとは……………131</p> <p>8.2 Web ページの作成……………133</p> <p>8.2.1 テキストの作成と編集……………133</p> <p>8.2.2 表やリストの作成……………138</p> <p>8.2.3 イメージの作成……………140</p> <p>8.3 ホームページの作成……………141</p>	<p>8.3.1 リンクの作成……………141</p> <p>8.3.2 アンカーリンクの作成……………145</p> <p>8.3.3 フレームの作成……………148</p> <p>8.4 HTML の基本要素のまとめ……………150</p> <p>演 習 問 題……………152</p>
--	---

付録 キーボード操作および日本語入力

<p>1. キーボード……………153</p> <p>2. 日本語入力システムの概要……………154</p>	<p>3. 日本語入力システムによる 漢字入力……………155</p> <p>4. 入力の訂正, 文節の変更……………157</p>
--	--

引用・参考文献……………158

索 引……………160



情報処理入門

本章では、情報社会で利用される情報処理システムおよびコンピュータシステムの概要について述べる。特に、現在私たちの身近に広く普及しているパソコンシステムについて述べる。

1.1 情報社会と情報活用能力

現代は情報化社会だといわれる。私たちの身の周りには、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、電話（携帯電話）、コンピュータ、インターネットなどにより、いろいろな情報があふれている。そのような社会の中で私たちは、意識するしないにかかわらず、それらの情報を加工したり、伝達したり、蓄積したりしながら暮らしている。

1948年に、シャノン（C. E. Shannon）は情報量という概念を示し、情報を定量的に扱うための尺度を提案した。これにより、図 1.1 に示すように、自然科学の分野の2本の柱である「物質」と「エネルギー」に加えて、「情報」を第三の柱に位置づけて考えることができるようになった。

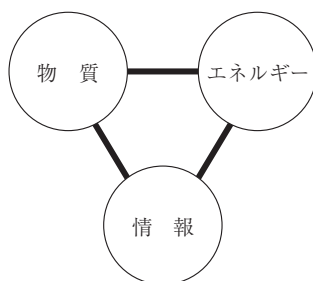


図 1.1 自然科学の3分野

1946年に、アメリカのペンシルベニア大学のエッカート（J. P. Eckert）とモークリ（J. W. Maucly）により、世界最初の電子式計算機である ENIAC が開発された。その後、コンピュータはあらゆる面で急速に進歩してきた。開発当初は大砲の弾道計算という軍事目的であり、数値の計算を高速に正確に実行するだけの機械であった。それがしだいに、私たちが日常に行っている数値計算以外の幅広い情報処理を行う機械へと変化し、さらには、人間が

2 1. 情報処理入門

持っている知識を扱うことができる機械へと発展してきている。

1980年ごろからはパソコン（マイコン）の出現により小形化、低価格化されたコンピュータが開発され、それが広く社会に普及した。それまでは1台の大きなコンピュータをみんなで使う方式だったが、個人で自分のコンピュータを所有できるようになった。さらに、それら個人のコンピュータを単体で使うだけでなく、たがいに接続し通信できるようになり、ネットワークを構成するようになった。それにより、分散処理、ダウンサイジングという流れが加速された。1990年代半ばからは、そのネットワークが全世界に広がり、コンピュータを窓口にした不特定多数の人々との情報交換が日常的に行われるようになった。

このような社会背景のなか、学校でも情報教育の必要性が論じられ、2003年度から高等学校で教科「情報」がスタートした。情報リテラシーやコンピュータリテラシーという言葉も生まれた。もはやコンピュータは一部の専門家だけのものではない。コンピュータを便利な道具として日々の生活に活用していく能力が、私たちみんなに求められている。すなわち、これからの情報社会に生きるすべての人にとって、コンピュータを利用して生活していくのに必要な情報活用能力を身につけることが必要である。

1.2 情報処理システムの概要

私たちの身の周りにはいろいろな種類のコンピュータがあふれている。それらは、汎用コンピュータと専用コンピュータに分類できる。汎用コンピュータは、特定の用途に限定するのではなく、ソフトウェアを変えることでいろいろな仕事ができるコンピュータである。専用コンピュータは、特定の目的のために利用されるコンピュータで、その多くはいろいろな機器に組み込まれて利用されるものである。例えば、電話の自動交換機や生産ラインの制御、電気炊飯器や電気掃除機などの身近にある家電製品にも組み込まれている。本書で対象とするコンピュータは汎用コンピュータとしてのパソコンである。

コンピュータの機械そのもののことをハードウェアといい、その上で動作するプログラムのことをソフトウェアという。ハードウェアとソフトウェアの境界では、マイクロプログラムなどハードウェアを直接的に制御するソフトウェアをハードウェア化して組み込んだものをファームウェアという。また、利用技術のことをユースウェアということもある。

コンピュータが生まれてから50年あまりが経つが、コンピュータの歴史を考えると、**表 1.1**に示すように、コンピュータを構成する各部品になにを使っているかで区分し、世代という言葉が使われる。

1958年ごろまでの真空管の時代を第一世代という。その後、1963年ごろまでは、論理素子としてトランジスタ、記憶素子（主記憶）として磁気コアメモリ、補助記憶として磁気ド

表 1.1 コンピュータの歴史

世代	年	技術	論理素子	記憶素子
第一世代 (～1958年ごろ)	1946年	ENIACの開発 (世界最初の電子式コンピュータ)	真空管	磁気遅延線 静電管 磁気ドラム
	1948年	トランジスタの発明		
	1949年	EDSACの開発 (世界最初のプログラム内蔵方式)		
第二世代 (1959年ごろ～ ～1963年ごろ)			トランジスタ	磁気コアメモリ
第三世代 (1964年ごろ～ ～1971年ごろ)	1971年	マイクロプロセッサの出現	IC	磁気コアメモリ IC
第三.五世代 (1972年ごろ～ ～1980年ごろ)			MSI, LSI	LSI
第四世代 (1981年ごろ～)	1980年代 1990年代	パソコンの普及 インターネットの普及	VLSI	VLSI

ラムが利用された。この時代を第二世代という。

それ以後は、論理素子として集積回路 (IC : integrated circuit) が使われた。この時代を第三世代という。主記憶にも IC が使われるようになり、補助記憶は磁気ディスクが使われるようになった。

その後、IC の集積度を上げ、MSI (medium scale integration), LSI (large scale integration), VLSI (very LSI) と進歩してきている。現在の VLSI で論理素子や記憶素子を構成するコンピュータは第四世代と位置づけられる。

また、次世代 (第五世代) のコンピュータの開発も行われている。これは構成素子の面からだけでなく、人工知能の技術を取り入れた新しいタイプのコンピュータを開発する試みである。

コンピュータの基本機能は、記憶、演算、制御、入力、出力 (五大機能) に分類できる。コンピュータで処理するさまざまな情報 (データやそれを処理する手順を記述したプログラム) はファイルという形式で記憶されている。そのデータに対して、プログラムに記述した手順に従って、実際に計算 (演算) する。あるいは、周りの装置や機器を制御する。このような処理すべきデータは、人があらかじめ、コンピュータ内に入力しなければならない。また、処理した結果はさまざまな形 (文字、図形、画像、音声など) でコンピュータ外へ出力される。入出力は、人間とコンピュータの接点にあたる機能である。

それらの機能を果たすために、コンピュータはつぎのような装置から構成されている。記憶を行うのは、主記憶装置、補助記憶装置である。演算・制御を行うのは、演算装置と制御装置である。また、外部から情報を取り入れるための入力装置と処理結果を外部に取り出す

4 1. 情報処理入門

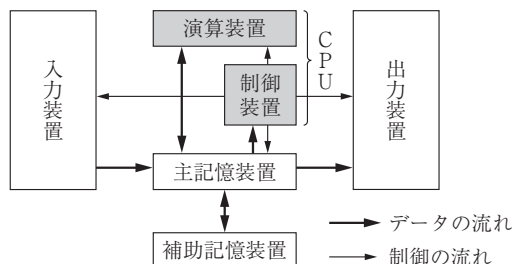


図 1.2 コンピュータの構成

ための出力装置がある。図 1.2 にコンピュータの構成を示す。

演算装置と制御装置は、中央処理装置（CPU：central processing unit）と呼ばれるコンピュータの中心的部分で、主記憶装置にあるプログラムの指示に従ってデータを処理していく。CPU では、主記憶装置に置かれたプログラムを 1 命令ずつ読み出して（命令読出し）、その命令がどのようなものか調べて（命令解読）、その命令を実行する（命令実行）。その途中で割込みがあれば受け付ける。この方式をプログラム内蔵方式（stored program）という。CPU 内の記憶場所はレジスタと呼ばれる。

主記憶装置はメモリとも呼ばれ、現在実行中のプログラムやデータが置かれる。主記憶装置内では、プログラムもデータも区別はなく、番地（アドレス：address）という記憶場所を示す通し番号のようなもので管理されている。

補助記憶装置は主記憶装置に入らない大量のデータを格納する装置で、磁気ディスク装置などがある。コンピュータ内の記憶場所としては、CPU 内のレジスタ、主記憶装置、補助記憶装置があり、小容量だが高速であるものから、低速だが大容量であるものまで階層的に構成されている。一般に、レジスタおよび主記憶装置は、電源切断後はデータは消えてしまう（揮発性）が、補助記憶装置は電源切断後もデータを保存する（不揮発性）ことができる。

入力装置は、コンピュータの外部からプログラムや処理すべきデータを取り入れる装置であり、キーボード、マウスなどがある。センサ（sensor）は、外界の物理的、化学的な情報を検知し電気信号に変換する。その後、アナログデータをデジタルデータに変換（A-D 変換）し、コンピュータに取り込むことができる。

出力装置は、処理結果などをコンピュータの外部に出すための装置であり、ディスプレイやプリンタなどがある。最近では、コンピュータをネットワークでたがいに接続して出力装置を共有して利用することもある。この入力装置と出力装置は人がコンピュータを利用する際の窓口となる部分であり、その使い勝手（ヒューマンマシンインタフェース：human-machine interface）が重要である。

1.3 パソコンの構成

1.3.1 ハードウェア

パソコンはパーソナルコンピュータ (personal computer) の略称で、個人で利用する小形のコンピュータである。1970年代後半に登場したパソコンは、その後順調に高性能化を続けてきた。小形ではあるが、その性能は、以前の大形計算機(メインフレーム)をしのぐものになった。1990年代半ばからは家庭への浸透を目指し、マルチメディア機能も充実してきている。パソコンの種類としては、据置きタイプのデスクトップ形およびタワー形(図1.3(a))、携帯タイプのノート形(図(b))などがある。



(a) タワー形パソコン

(b) ノート形パソコン

図 1.3 パソコンの種類

つぎにパソコンの各構成要素について述べる。

CPUは中央処理装置のことで、計算の中核部分であるが、パソコンの場合はMPU (micro processing unit) と呼ばれることもある。メモリ上のプログラムやデータを読み出したり、演算を実行したり、結果を書き出したり、他の資源(メモリやディスクなど)を管理・制御したりする。CPUの性能はその上で動くアプリケーションプログラムの性能を大きく左右する。

主記憶装置(メモリ)は現在実行中のプログラムとデータを保持し、必要に応じてCPUに供給する。ハードディスク(HD: hard disk)などの補助記憶装置は電源切断後もデータを保持できる記憶装置である。メモリシステムは高速・大容量・低価格という三つの要素が重要であるが、1種類の記憶装置だけでそれらを満たすことは難しい。そこで、速度と容量の異なる複数の記憶装置を階層的に組み合わせ、全体の記憶システムを構成することが多い。つまり、よく利用されるプログラムやデータはCPUに近い高速・小容量の記憶装置に置き、あまり利用されないプログラムやデータはCPUから遠い低速・大容量の記憶装置に

6 1. 情報処理入門

置く。この階層的な記憶システムは、表 1.2 に示すように、レジスタ、キャッシュメモリ (cache memory)、主記憶 (メモリ)、補助記憶 (ハードディスク) とからなる。

表 1.2 階層的な記憶システム

記憶システム	速度	容量
レジスタ	高速	小容量
キャッシュメモリ	↑	↑
主記憶 (メモリ)	↓	↓
補助記憶 (磁気ディスク)	低速	大容量

入力装置としては、図 1.3 のようなキーボードとマウスがよく利用される。キーボード (key board) は文字を入力するための装置で、キーを打鍵することで入力する (巻末の付録参照)。マウス (mouse) は、ポインティングデバイス (pointing device : 座標入力装置) の一つで、片手で握って机の上で動かすと、その移動量に応じて、画面上のマウスポインタが動く。移動量の検出にはボール方式と光学式がある。その他の入力装置としては、写真や絵などの画像を読み取るイメージスキャナ (image scanner) やデジタルカメラ、ディスプレイ前面に取り付けたパネル面を指で押さえることにより入力するタッチパネル、活字や手書き文字を読み取る OCR (optical character reader) などがある。

出力装置としては、ディスプレイとプリンタが一般的である。ディスプレイには、最近では、薄く軽く消費電力が小さいので、図 1.4 に示すような液晶ディスプレイ (LCD : liquid crystal display) が広く利用されている。



図 1.4 液晶ディスプレイ

プリンタは、パソコンで処理した文字や図形や画像などを紙に印刷する装置である。印刷データをページ単位で一括して処理するページプリンタ (図 1.5) と印字ヘッドを水平に移動させて 1 文字ずつ印刷するシリアルプリンタがある。ページプリンタは 1 ページ分の印刷イメージを作成し、帯電させた感光ドラムにトナーを付着させて印刷する。印字品質は、1 インチあたりのドット数 (dpi : dot per inch) で表される。レーザープリンタが代表的なものである。シリアルプリンタの代表的なものにインクジェットプリンタがある。ノズルから出

索引

【あ】	
アイコン	12, 53
アウトラインペイン	83
アカウント	127
アドレス	4, 16, 116
アドレスバー	16, 117, 118
アニメーション機能	91
アプリケーションソフト	116
アプリケーション ソフトウェア	8
アンカー	147
アンカーリンク	145
【い】	
イラスト文字	51
印刷プレビュー	45
印刷ボタン	118
インターネットサービス プロバイダ	114
インターネットの光と影	128
インデント	42
【う】	
埋め込み機能	54
【え】	
液晶ディスプレイ	6
エクスプローラー	14
エックカート	1
絵文字	53
演算子	122
【お】	
応用ソフトウェア	8
お気に入り	118
オートSUM	66
オートフィルタ機能	76
オートフォーム	105
オペレーティングシステム	8
【か】	
階層データモデル	94
囲い文字	36
囲み線	36
カーソル	36

カット&ペースト	40
カード型データベース	95
【き】	
キーボード	6, 153
基本ソフトウェア	8
キャッシュメモリ	6
行番号	56
切り取り	19
キーワード	121
均等割り付け	37
【く】	
クイックアクセスツールバー	25
クエリ	95, 107
——の作成	96
グラフ作成機能	70
クリップアート	50, 87
グループ	35
【け】	
罫線	37
言語プロセッサ	8
検索サービス	121
検索の設定	117
検索ボタン	117
検索ボックス	16, 117
【こ】	
更新	117
個人情報	128
五大機能	3
コピー&ペースト	41
ごみ箱	19
ごみ箱アイコン	12
コンピュータウイルス	129
【さ】	
最小化ボタン	15
最新の情報に更新ボタン	16
再生コントロール領域	30
最大化ボタン	15
座標入力装置	6
サブジェクト	127
参照整合性	110

【し】	
シェアウェア	8
視覚効果	90
シグネチャー	127
字下げ	42
システムプログラム	8
シート見出し	56
シナリオ	81
シャットダウン	12
シャノン	1
主記憶	2, 6
主記憶装置	3, 5
条件検索	122
詳細ウィンドウ	16
情報量	1
ショートカット	20
ショートカットメニュー	41
署名	127
シリアルプリンタ	6
信憑性	130
【す】	
数式バー	56
スクロールバー	36
スクロールボタン	36
進むおよび戻るためのボタン	16
スタートボタン	12
スタートメニュー	12
ステータスバー	35, 83, 118
ストーリーミング	29, 30
スプレッドシート	53
ズームスライダー	25
スライド	81
スライドショー	89
スライドペイン	83
【せ】	
セキュリティ	129
絶対参照	63
セーフティボタン	118
セル	56
セルを結合して中央揃え	61
センサ	4
選択クエリウィザード	108
選択フィルタ	103

センターリング 41
 専用コンピュータ 2

【そ】

相対参照 63
 ソフトウェア 2,8
 ゾーンコード 115

【た】

ダイアルアップ IP 接続 115
 ダイアログ 10,19
 ダイアログボックス 10
 ダイアログボックス
 起動ボタン 35
 タイトルバー 35,82,117
 ダウンロード 29
 タスクバー 11,13
 タスクバーボタン 12
 タブ 25
 ダブルクリック 12
 段組み 46

【ち】

チェーンメール 128
 地上デジタル 9
 中央処理装置 4
 中央揃え 37
 著作権 128

【つ】

通知領域 13
 ツールバー 16,118

【て】

ディスプレイ 6
 ディレクトリ形 121
 デザインビュー 99
 デジタル3波放送 9
 デジタル放送 9
 デスクトップ 12
 データシートビュー 99
 データの検索 101
 データの置換 102
 データの抽出 75
 データの並べ替え 53,102
 データベース 31,94
 データベースオブジェクト 95
 データベース機能 53
 データモデル 94
 テーブル 95
 —の作成 96
 電子メール 124

【と】

閉じるボタン 16
 ドメイン名 115,125
 ドラッグ 12,15
 ドラッグ&ドロップ 12
 取消ボタン 56

【な】

ナビゲーション
 ウィンドウ 16,29
 名前ボックス 56
 並べ替えボタン 16

【に】

入力ボタン 56

【ぬ】

塗りつぶし 37

【ね】

ネチケット 127
 ネットワーク型データモデル 94

【の】

ノートペイン 83

【は】

パスワード 10,127
 パソコン 5
 パーソナルコンピュータ 5
 ハードウェア 2,5
 ハードディスク 5
 ハブ 7
 貼り付け 19
 番地 4
 汎用コンピュータ 2

【ひ】

光磁気ディスク 7
 左クリック 12
 左揃え 37
 ヒューマンマシン
 インタフェース 4
 描画領域 25
 表計算 31
 表計算ソフト 53
 表示形式の変更ボタン 16
 表示ボタン 36,57,83

【ふ】

ファイルタブ 35
 ファイルの印刷 44
 ファイルの保存 43

ファイルの読み込み 44
 ファイルやフォルダ表示領域 16
 ファームウェア 2
 フィードボタン 118
 フェードアウト 91
 フォーム 95
 —の作成 96,105
 フォームウィザード 106
 フォームフィルタ 103
 フォルダウィンドウ 16
 フォント 36
 フォントサイズ 36
 プライバシー 127
 ブラウザ 116
 ブラッシュメモリ 7
 フリーウェア 8
 ふりがなの表示 / 非表示 61
 フリーソフト 8
 プリンタ 6
 プルダウンメニュー 16
 プレイビューボタン 30
 プレゼンテーション 81
 プレビューウィンドウボタン 16
 フレーム 149
 —の作成 148
 フレーム機能 148
 プログラム言語 8
 プログラム内蔵方式 4
 フロッピーディスク 7

【へ】

ペイント 24
 ペイントボタン 25
 ページプリンタ 6
 ページボタン 118
 ページレイアウト 46
 編集領域 21

【ほ】

ポインタ 21,25
 ポインティングデバイス 6
 補助記憶 2,6
 補助記憶装置 3
 ホームページ 131,141
 ホームページ・ビルダー 133
 ホームポジション 153
 ホームボタン 118
 ポリユーモライセンス 10

【ま】

マウス 6
 マウスポインタ 6,16
 マークアップ言語 131
 マルチメディア機能 9

【み】		ユーザ名	10,125	ルビ	36
右クリック	12	ユースウェア	2	【れ】	
右揃え	37	【よ】		レコードの抽出	103
【め】		要素名	135	レジスタ	4
メディアガイドボタン	29	【り】		列番号	56
メニューバー	21,117	リストウィンドウ	30	レポート	95
メモ帳	20	リハーサル	90	——の作成	96,111
メモリ	4,5	リボン	25	レポートウィザード	111
メーリングリスト	128	両端揃え	37	連鎖更新	110
メールアドレス	124	リレーショナル		連鎖削除	110
メールサーバ	124	データベース	95	【ろ】	
メールボタン	118	リレーショナル		ロボット形	121
【も】		データモデル	94	【わ】	
モークリ	1	リレーションシップ	109	ワイパー	91
文字の網かけ	36	リンク	116	ワークシート	53
【ゆ】		リンク機能	54	ワードアート	51
有害情報	129	【る】		ワードプロセッサ	32
		ルータ	7	ワープロ	30,32

【A】		【E】		MO	7
Access	95,96	E-mail	124	Mozilla Firefox	116
Access 2010	31	ENIAC	1	MPU	5
ADSL	115	Enterprise	9	MSDN	10
Aero シェイク	13	Enter キー	38	MS-IME	154
Aero スナップ	13	Excel 2010	31	【N】	
Aero プレビュー	13	【F】		name 属性	147
AVERAGE	67	FD	7	【O】	
【B】		【G】		Office 2010	30
Backspace キー	38	GUI	9	OLE	79
BCC	125	【H】		OneNote 2010	31
BS デジタル	9	Home Basic	9	OS	8
【C】		Home Premium	9	Outlook 2010	31,124
CATV	115	HTML	131,150	【P】	
CC	125	HTML 文書	131	PowerPoint	82
CD-R	7	http	116	PowerPoint 2010	31
CD-ROM	7	【I】		Professional	9
CD-RW	7	Internet Explorer	116	Publisher 2010	31
CPU	4	IP アドレス	115	【S】	
CS デジタル	9	【L】		SGML	131
【D】		LAN	114	Starter	9
DBMS	94,96	LCD	6	【T】	
Delete キー	38	【M】		TCP/IP プロトコル	114
dpi	6	Microsoft Office IME 2010	154	【U】	
DTD	135			Ultimate	9
DVD	7				

URI URL USB USB チューナ USB メモリ WAN	131 116, 131 7 9 7 114	Web サーバ Web ブラウザ Web ページ Web ページ作成ソフト Windows 7 Windows Aero Windows Live メール Windows Media Player	116 116 118, 131, 133 133 9 9, 13 124 20	Windows Vista Windows XP Windows XP Mode Windows フリップ 3D Word 2010 Word 97-2003 WWW WWW サーバ	9 9 10 13 30 44 115 116
---	---	---	---	--	--

【w】

— 著者略歴 —

高橋 参吉 (たかはし さんきち)
1973年 大阪府立大学工学部電気工学科卒業
1975年 大阪府立大学大学院工学研究科修士
課程修了(電気工学専攻)
1980年 大阪府立工業高等専門学校助教授
1997年 大阪府立工業高等専門学校教授
2004年 千里金蘭大学教授
現在に至る

若林 茂 (わかばやし しげる)
1980年 大阪大学基礎工学部情報工学科卒業
1982年 大阪大学大学院基礎工学研究科修士
課程修了(物理系情報工学専攻)
1989年 神戸市立工業高等専門学校助教授
2002年 神戸市立工業高等専門学校教授
現在に至る

松永 公廣 (まつなが きみひろ)
1969年 神戸大学工学部計測工学科卒業
1971年 神戸大学大学院工学研究科修士課程
修了(計測工学専攻)
1982年 明石工業高等専門学校助教授
1992年 摂南大学助教授
2000年 摂南大学教授
現在に至る
2001年 博士(人間科学)

黒田 芳郎 (くろだ よしろう)
1969年 大阪府立淀川工業高等学校電気科卒業
1969年 大阪府立工業高等専門学校学校技師
2006年 大阪府立工業高等専門学校主査
2009年 大阪府立工業高等専門学校助手
現在に至る

入門 情報リテラシー [Windows 7/Office 2010]

Introduction to Information Literacy [Windows 7/Office 2010]

© S. Takahashi, K. Matsunaga, S. Wakabayashi, Y. Kuroda 2011

2011年2月28日 初版第1刷発行

検印省略

著者 高橋参吉
松永公廣
若林茂
黒田芳郎
発行者 株式会社 コロナ社
代表者 牛来真也
印刷所 萩原印刷株式会社

112-0011 東京都文京区千石 4-46-10

発行所 株式会社 コロナ社

CORONA PUBLISHING CO., LTD.

Tokyo Japan

振替 00140-8-14844・電話 (03) 3941-3131 (代)

ホームページ <http://www.coronasha.co.jp>

ISBN 978-4-339-02453-1

(安達) (製本: 愛千製本所)

Printed in Japan



無断複写・転載を禁ずる

落丁・乱丁本はお取替えいたします